

平成29年度第1回

# 松本市総合教育会議会議録

松本市教育委員会

## 平成29年度第1回松本市総合教育会議会議録

平成29年度第1回松本市総合教育会議が平成29年5月18日午後3時00分市役所第一応接室に招集された。

---

平成29年5月18日（木）

---

### 議 事 日 程

平成29年5月18日午後3時00分開議

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 懇談
  - (1) 第2次松本市教育振興基本計画（案）の目指すものについて
    - ア 「学都松本」としての三つの目指すまちの姿
    - イ 「生きる力」「確かな学力」と「学都松本」について
  - (2) 市長部局と教育委員会との連携について
    - ア ひきこもりの現状と課題について
    - イ 「松本市子どもの未来応援指針」の推進について
- 4 閉会

〔構成委員〕

市	長	菅	谷	昭		
教	育	長	赤	羽	郁	夫
教育長職務代理者		市	川	莊	一	
委	員	花	村	潔		
	〃	福	島	智	子	
	〃	山	田	幸	江	

〔事務局構成員〕

総	務	部	長	丸	山	貴	史								
行	政	管	理	長	市	川	英	治							
健	康	福	祉	部	長	樋	口	浩							
福	祉	計	画	課	長	中	野	嘉	勝						
地	域	づ	く	り	部	長	宮	川	雅	行					
地	域	づ	く	り	課	課	長	補	佐	胡	桃	澤	伸	一	(地域づくり課長代理)
こ	ど	も	部	長	伊	佐	治	裕	子						
こ	ど	も	育	成	課	長	上	條	公	徳					
教	育	部	長	矢	久	保	学								
学	校	教	育	課	長	麻	田	仁	郎						
学	校	指	導	課	長	横	田	則	雄						

〔事務局〕

教育政策課長	小	林	伸	一
教育政策課				
教育政策担当係長	甕	国	人	
教育政策課				
教育政策担当係長	堀	敬	子	

《開会宣言》 午後3時00分

教育政策課長は平成29年度第1回松本市総合教育会議の開会を宣言した。

教育政策課長 ただいまから平成29年度第1回松本市総合教育会議を開催いたします。教育政策課長の小林ですが、議事に入るまでの間、進行を務めますのでよろしく願いいたします。

本日の会議はお手元の次第により進行いたします。

最初にこの会議を主宰する菅谷市長からご挨拶をお願いいたします。

菅谷市長 皆さん、こんにちは。松本市のキャッチフレーズに「山高く、水清くして、風光る」というものがありますけれども、まさに青葉若葉の緑が大変美しくなり、爽やかな風が吹く季節になってまいりました。

平成29年度第1回松本市総合教育会議の開催にあたり、ご挨拶させていただきます。

日頃は、赤羽教育長を初めとしまして、教育委員の皆様におかれましては、松本市の教育行政の推進に対しまして、大変なご苦勞をいただいておりますことに、改めて心から感謝を申し上げます。また本日は何かとご多忙の中、ご出席いただきましたことに対しまして、重ねてお礼を申し上げます。

さて、現在、松本市では、めざすべき将来の都市像として「健康寿命延伸都市・松本」を掲げ、この松本のまちで生きていることに幸せを実感できるまちづくりを市民の皆様と共に創っていく「生きがいの仕組みづくり」に取り組んでおり、その実現には、「教育」の果たす役割が大変重要であると認識しております。

昨年、開催しました総合教育会議におきましては、平成27年に市の「教育大綱」に位置づけました「松本市教育振興基本計画」に根ざした具体的な方策に対する成果やその課題、さらには社会的に問題となっている子どもたちの状況等にスポットをあて大変有意義な懇談を行うことができました。この懇談を通じて感じましたことは、松本市では県下で初めて制定いたしました「松本市子どもの権利に関する条例」が、子どもたちのいきいきとした未来を創造していく原点であるということでございます。

その意味からも現在策定中の「第2次松本市教育振興基本計画」では、「子どもの権利条例」の理念や考え方を生かしたご議論をいただけますことを期待しております。

本日の総合教育会議では、教育委員会が目標に掲げております、「学都松本」のめざすまちの姿、さらには「学都松本」の創造に向けて求められる力や、今後のめざすべき方向性を改めて考えていきたいと思っております。そして、課題に対する知恵やアイデアを出し合い、未来を担う子どもたち一人ひとりが、いきいきと輝く施策の推進に向け、市長部局と教育委員会とが力を合わせて取り組んでいくことを確認していきたいと考えております。

教育委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場から、あまり形式にとらわれずにご発言いただきまして、自由闊達な意見交換ができることを望んでおりますので、本日はどうぞよろしく願いいたします。

教育政策課長

ありがとうございました。

続きまして赤羽教育長からご挨拶をお願いします。

赤羽教育長

本年度第1回松本市総合教育会議の開催にあたりまして、教育委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

私は、内館牧子さんの言葉で、「2月の雪、3月の風、4月の雨が輝きの5月をつくる」という言葉が気に入っており、本年、いろんな会議でこのお話をさせていただいておりますが、まさに、今日の天気は「輝きの5月」だと実感をしております。

さて、今年度で3年目を迎えます総合教育会議ですが、昨年度の懇談では、「第2次松本市教育振興基本計画（案）」にその内容を反映させることが出来ました。ありがとうございました。

ご承知のとおり、この計画は松本市の「教育大綱」としての位置づけていくもので、現在パブリックコメントを実施し、策定をめざしておりますが、この計画の中でも多くの課題が浮かび上がってきております。

その一つに、本日懇談として取りあげる「ひきこもり」があげられ、現在社会的にも大きな問題になっております、小・中学校の不登校、また、さまざまな経緯を経て社会との関わりがほとんどない子ども、若者も増え

てきております。このことは、これからの地域づくりに大きな影を落としていくのではないかと懸念をしております。

本日の懇談では「ひきこもりの現状と課題」を把握するとともに、「松本市子どもの未来応援指針」の推進についての理解も深めながら、一人でも多くの子どもたちが一歩前へ踏み出す勇気を持てるようなそんな議論を深めていきたいと思っています。そのためには、平成27年度から総合教育会議が始まったと同時に進めてまいりました、部局を超えた連携をさらに充実させていく必要があると考えております。

ぜひ、本日の会議をきっかけにしまして、松本市の教育のめざす姿「学都松本」の一層の推進を図り、「健康寿命延伸都市・松本」の実現に向け、市長部局と教育委員会が一体となって取り組んでまいりたいと考えておりますので、菅谷市長におかれましては、今度とも格別のご理解をお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いをいたします。

教育政策課長 それでは、早速懇談に入ります。

なお、今回の総合教育会議は2つの懇談項目がございますが、2つ目の「市長部局と教育委員会との連携について」は非公開としますので、よろしくお願いいたします。

それでは菅谷市長、進行をよろしくお願いいたします。

菅谷市長 それでは、私が進行を努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

皆さんのお手元に配付しております、会議次第に沿って進めてまいります。

はじめに、現在策定中である「第2次松本市教育振興基本計画」について、あらためて「学都松本」としてめざすまちの姿、そして「学都松本」に向けて育てたい力について事務局より説明をお願いします。

教育部長 (学都松本を目指して概要版について説明)

菅谷市長 ありがとうございます。

今、教育部長から「第2次松本市教育振興基本計画」の概要版に沿って説明がありました。

これにつきまして委員の皆さま何かご意見などがありましたらお願いし

ます。

ところで、現在、「第2次松本市教育振興基本計画」はどのような状況ですか。

教育部長 本日まで、パブリックコメントを実施しており、6月に策定予定です。

菅谷市長 では、この会議で意見があれば加えられるということですね。

教育部長 そのとおりです。

菅谷市長 では、早速でございますが、赤羽教育長からいかがでしょうか。

赤羽教育長 ただいま矢久保教育部長から説明がありました、「第2次松本市教育振興基本計画」の策定に関わる中で、私自身もいろいろ考えさせられることが沢山ありました。特に子どもたちを取り巻く課題を考えた時、その多くが私たちが今まで当たり前として考えてきたことの問い直しが必要ではないかということです。

例えば教育制度ですが、日本の教育制度は学校教育を核として、世界でも類を見ない効率と成果を上げ、日本の近代化や高度経済成長などに寄与してきました。しかし近年、「超少子高齢型人口減少社会の進展」「いじめ・不登校・ひきこもりの増加」「学力格差の拡大」「子どもの貧困の拡大」などの課題が顕著となり、その狭間で苦しんでいる子どもが増えてきているのではないかと懸念しています。

その苦しみは何かと考えた時に、やはり、その子に合った多様な生き方ができにくい。単線というのでしょうか、失敗したらやり直しがきかないなどが根っこにあるのではないかなと考えるようになってきました。どの子も自分らしく、また自分らしさを発揮しながら、社会に貢献していることを生きがいに感じる、また途中でつまずいたら、そこでやり直しができるような多様な価値観をもとに生きることができる社会を私たちはめざしていかなければいけないと思うこの頃です。そのことが市長の言う「いのちの質、人生の質」につながっていくものと考えています。

「学都松本」の推進に当たり、私たちは、今まで当たり前とできてきたことを問い直す、問い返す時期にきているのではないかと考えています。

菅谷市長 ありがとうございます。

赤羽教育長から、改めてもう一回、問い直しという意見がありました。

花村委員はどのようにでしょうか。

花村委員

教育長の言われた、ある意味では教育方針の偏りみたいなものを私は感じています。

小学校へ入学してから卒業までを全部同じようにしようというような、そういった考えが根底にあると思うのです。生徒は一人ひとり個性があり、能力も異なります。理想は、一人ひとりの個性に合った教育ができればいいと思うのですが、なかなか出来ないため、これをどうやって助けていくのか、いろいろ方法はあると思います。

一例ですが、先日、高綱中学校で「チーム若鷹委員会」という委員会があり出席してきました。出席者は学校関係者、PTA、町会、それからボランティアの方等15、6人いたと思います。その中の皆さんがおっしゃったことは、「みんなと同じように行動できなくなった子どもたちを支え、何とかしていくことは出来ないだろうか」「学校の先生だけにお任せするのではなく、PTA、町会、公民館等のボランティアで子どもたちを教育できるようなそんなことは出来ないだろうか」ということでした。今は、学校と地域が一体となってやっていかないと大変な状況になってしまうという話が出され、地域の皆さんの力を借りて、子どもたちと一緒に育てていくことが大切であるという内容で、私も聞いていてつくづくそうだと思います。

一昨年、川崎市に視察に行った際、地域のボランティアの方がチームを組んで取り組んでいる中学校がありました。

中学校の授業終了後、要するにこの授業に対しては、ちょっと分からない、それから、この子は理解が遅れているという子どもに対して、中学校の先生たちと連携を持ちながら、ボランティアの先生が授業を個別に放課後、まるで夜間中学校のようにやっていました。これにはとても驚きました。こういった形でボランティアの方が率先して手伝っていただければ、もっと充実した教育が出来るのではないのでしょうか。

菅谷市長

ありがとうございました。

この辺、福島先生はどうですか。

福島委員

先ほど赤羽先生もおっしゃったように、学校教育というのが単線的で、



ここから外れてしまった子どもたちをどう支えていくかということが、今大きな課題になっていると思います。

今朝、総合教育会議の開催にあたり、主人と日本の子どもの貧困について話をしましたら、少し口論になりました。

今は、相対的な貧困が問題になっていますが、日本で例えばいい高校、いい大学、いい会社に就職したいと思った時に、親の経済的な背景で進路が決まってしまうということを話しましたら、そこが問題で、大学のシステムが悪いか、義務教育のシステムが悪いかどちらかだと言われました。

例えばイタリアの場合は、公立の学校に行って大学に進学できる学力がつかないということは考えられないというのです。イタリアの大学は入学試験がありません。中学校まではかなり学力保障をしていて、学力が達しなければ、何回か留年もあるという制度の中で、学力をつけるということが、学校の大きな目標の一つになっています。ですので、勉強したい子はそのまま勉強していく。でも自分は勉強に向かない、もう働きたいという子は職業的な方向に進む。そういう道が中学校を卒業してすぐに分かれるシステムになっています。

もう一つ話に出たのが、今、私の子どもが小学生ですが、同じ教室の中に、例えば塾に行っていて、その学年の勉強の1学年、2学年先のことをやっている子もいれば、そこについてくることさえも、勉強に向かう気持ち自体もないというような子たちが混在していて、そういった教育現場での先生方もとても大変だろうと思いますが、そのあり方がやはり歪んでいて、根本的に変えていくことを考えていけないといけないと思います。

今、ひきこもりや不登校、いじめが問題となり対処せざるを得なくなってしまったことは理解できますが、何かとても暗い気分になります。

菅谷市長 後の懇談に絡んだような話になってきておりますので、とにかく今、は、教育振興基本計画（案）を作成しましたので、これについてのご意見をいただきたいと思います。

では、山田委員はどうでしょうか。

山田委員 私は、この基本施策の方針のトップに「子どもの権利の推進」が掲げられていることは、子どもの現場にいるものとしてはとてもありがたいと思いま

す。そして、「学都松本」への取組みの指針に、「不易を貫き、変わらない大切なことを継続します」とありますが、先ほど赤羽教育長がおっしゃっていた当たり前のことをもう一度見直して、しっかり子どもに植えつけていくことが、大切だということが大きく謳われていて非常にいいと思います。

菅谷市長           ありがとうございます。

それでは、この「教育振興基本計画」については、委員さんの皆さんからご了承をいただいたこととします。

それでは、2つ目の懇談項目「市長部局と教育委員会との連携について」に移ります。報道の皆さんは申し訳ありませんが退席をお願いします。

(以下非公開)

《閉会宣言》

教育政策課長           平成29年度第1回松本市総合教育会議を閉じる旨宣言した。

<午後4時30分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

堀 敬子